

保育環境における壁面装飾の意義Ⅱ

—教育空間としての幼稚園の壁面装飾—

幡野 由理 理化学研究所BSI言語発達研究チーム
小田倉 泉 埼玉大学教育学部 乳幼児教育講座

キーワード：壁面、幼稚園、環境、教育、生活、遊び

1. 研究の目的

幼稚園・保育園における保育室の壁面は、保育界では「壁面構成」や「壁面装飾」と呼ばれ、園内の環境作りにおいて積極的に取り入れられている。幼稚園教員および保育士養成課程のカリキュラムにおいても、壁面構成の技術を身につけるための授業が設けられており、保育の現場へ出て行こうとしている学生にとって重要な学習事項であるといえる。

しかし、壁面構成の意義と目的について2009年に幼稚園教員および保育士への意識調査を行った結果、日々の保育の多忙さによる時間的制約の中で、その目的そのものがあいまいなものとなっている実情が明らかとなった（幡野・山根・小田倉2009）。先の調査では、保育室という空間そのものについてのとらえ方を調査したところ、保育士が保育室を「生活空間である」「遊び空間である」と回答したのに対し、幼稚園教員はその二つの観点と同等に「教育空間である」ととらえていることがわかった。保育士と比較して幼稚園教員の方が、保育室の教育的役割をより強く認識していることが示唆された。

また同調査からは、実際に壁面装飾に用いる絵やイラストは、「かわいらしさ」や「わかりやすさ」などが重視されており、安価で容易に、見た目の良いかわいらしい壁面を仕上げるため

に保育雑誌やインターネットなどのイラスト集を参考にして制作されていることが分かった。

本研究はこうした背景をふまえ、保育室空間を生活空間、遊び空間、教育空間として捉え、保育室の空間構成において壁面装飾がもつ役割と働きとを、実際の保育室を調査することによって検討することを目的としている。

2. 調査の概要

本研究では、幼稚園の保育室の壁面装飾を記録し、その用途によって分類を行った。

2-1 調査対象

埼玉県内の私立・公立幼稚園8園（A～H園）に調査を依頼し、4歳児および5歳児の保育室30クラスを対象に調査を行った。

2-2 調査時期

2010年3月に訪問し、集計した。

2-3 調査方法

園の了承を得て、ビデオとデジタルカメラで保育室内の壁面装飾を記録した。そこで見られた壁面装飾の種類を一覧にして、その用途ごとに生活・遊び・教育・その他に分類した。

3. 結果と考察

3-1 壁面装飾・掲示の種類

保育室内の壁面装飾は、それぞれが何らかの用途・目的をもって掲示されており、各保育室を網羅的に見た結果、27種類の掲示が認められた。表1は、そのそれぞれの掲示がいくつの保育室で認められたのかをまとめたものである。またその掲示が、既製のものではなく手製である場合には○を、また基本的には手製ではあるが部分的に既製品が入っている場合には△を

表1 装飾・掲示の種類

種類	掲示が認められた保育室数	手製○/ 一部既製△
(1) 園の一日(時計)	28	△
(2) お誕生日表	26	○
(3) お当番表	20	○
(4) 幼児と教師による装飾	20	○
(5) カレンダー(既成)	18	
(6) 教師による装飾	18	○
(7) 園の理念	16	
(8) 幼児の作品	14	○
(9) 手紙	12	△
(10) あいうえお表	11	
(11) カレンダー(幼児向け)	10	○
(12) グループ表	9	○
(13) 献立	8	
(14) 数字の表	8	△
(15) ~の仕方	8	○
(16) 歌詞	7	○
(17) 座席表	7	○
(18) 賞状	6	
(19) お約束	6	○
(20) ままごとコーナーの装飾(窓等)	5	○
(21) 園だより	5	△
(22) バスコース	4	○
(23) アルバム	3	○
(24) 既成の装飾品	3	
(25) 世界地図	3	
(26) クラスだより	3	
(27) アルファベット表	2	

付与した。

調査した保育室内には、室内を装飾するためだけに飾られた掲示物は比較的少なく、全ての装飾・掲示に掲示目的があることが分かった。また、装飾・掲示には文字情報が非常に多く、幼児の基本的な学習を補助するための掲示(「あいうえお表」・「数字の表」・「~の仕方」)も多くみられた。

装飾・掲示は教師の手作り(または一部手の入ったもの)がその大半を占めており、教師がこれらの装飾・掲示制作のためにいかに多くの時間を割いているかを暗示している。

以下表1に挙げた壁面の種類について述べる。

(1) 園の一日(時計)

掲示されている保育室数が最も多かったのが、園での一日の生活サイクルや時間割を記した装飾や掲示である。この種類には既製の壁掛時計も含んだ。本来なら壁掛時計は室内装飾の一つとして捉えられるが、保育室においては、教師の手作りの時間割表と併用され、幼児に時計の見方や時間の使い方を身につけさせるためのものであるといえる。

(2) お誕生日表

クラスの友達存在を意識することや、また一年を通して掲示することができ、月によって季節感を表現することも可能であるため、多用されていることが予想される。幼児の顔写真を用いたりして教師が全てを制作しているクラスもあれば、幼児本人に描かせた自画像や本人が作った工作物をメインにし、それらを教師が月ごとにまとめて掲示しているクラスもあった。月ごとの主役が入れ替わるように構成されたものもあり、幼児の興味関心を逸らさせない工夫を凝らすという点では、壁面装飾の代表的テーマであると言えるだろう。

(3) お当番表

クラス内の給食当番など、幼児が集団生活を営む中での役割分担を意識させる表である。その殆どが手作りによるもので、幼児の名前が書かれた札などを日めくりのように交換しながら

示すものが多かった。「今日の郵便屋さん」など、内容によっては、遊びの要素を含んだ表となっている。

(4) 幼児と教師による装飾

前回の調査で、教師が壁面制作の際に重視する観点の一つとして「教師の手による装飾の一部に子どもの作品を取り入れる」というものがあつた。全体の構成や核となる土台の装飾などのおおまかな部分を教師が手掛け、幼児たちがそこに付け加える形で参加し、作り上げる壁面装飾は、実際の保育室でも多く見られた。ただ、前述の(2)「お誕生日表」のように、種類としては別の項目に分類してあつても、制作の過程で上記のような形態をとっているものもあつたため、(4)に分類される掲示は、純粹に壁面を装飾するためだけに制作されたもののみと限定した。

(5) カレンダー（既製）

既製のカレンダーは、前述(1)「園の一日(時計)」における既製の時計の分類とは異なり、そのみで子どもたちに何かを伝えることはできないものであり、基本的には教師や保護者のための掲示だと考えられる。月日や曜日の認識の補助としては後述の(11)「カレンダー(幼児向け)」があるため、それとは用途を分けて考えることが適切である。

(6) 教師による装飾

前回の調査では「教師の手による装飾を中心にし、子どもの作品は展示しない」という観点を重視した答えは殆どみられなかつた。つまり、教師のみが作り上げた装飾については、教師たちも否定的な意見をもっていることがわかつた。しかし実際には、保育室内の壁の余白を埋め、空白を活用すべく教師が制作した壁面装飾もみられた。また、室内の雰囲気作りとして園内で共通した装飾(窓飾りやモビールのようなもの)を行っている園もみられ、その園らしさを表現するための要素となつていた。

(7) 園の理念

園の創立の理念(宗教的背景等)を表した掲

示は、創設者の写真・宗教的言葉や標語などは、その園の特色を生かし、生活の中で教育を行うための指針の一つといえる。そのほとんどには手作りではなく、古くより掲示されているものも多く、園の歴史の中で代々受け継がれている掲示・装飾であると考えられる。

(8) 幼児の作品

幼児自らが教師や友達に渡したものを教師が記念に壁面に掲示しているクラスも多くみられた。これらは特に何かのテーマを与えられて描かされたものというよりは、幼児の自発的な制作を発表する場として用意されているようにみえる。幼児は自分の作品が壁に飾られていることでその環境をより身近に感じることができる。

(9) 手紙

退官した教師、教育実習生、引越した友達などからクラスに宛てた手紙などの掲示も多くみられた。これらは一般的な家庭生活の中で掲示されることが少なく、園内の壁面に飾られていつでも閲覧できることで、クラス全体の思い出を呼び起こす材料となるだろう。また、手紙の書き方などの見本としてとらえることもできる。

(10) あいうえお表

今回の調査では4歳児と5歳児の保育室を中心としたため、就学前の準備としてひらがなの表などの掲示が多くみられた。ただし、これらはほぼ全てが既製のポスターであつた。

(11) カレンダー（幼児向け）

幼児が月日や曜日を認識できるように、分かりやすく教師によって作り直されたカレンダーがみられた。また、5歳児のクラスでは「卒園まであと〇日」といったカウントダウン方式の掲示もみうけられた。幼児の興味関心をそそる日めくりカレンダーなども掲示されており、意識的に幼児たちへ日々の認識を促す工夫が施されていた。

(12) グループ表

調査を行った期間は幼児たちがクラスの雰囲気には十分慣れているはずの年度末であつたに

もかわらず、クラス内のグループ分けに関する装飾が多くみられた。こうしたグループ表は、日々の園生活の中でグループごとに行動することが多い園では、幼児に集団生活を意識させるための自然な工夫といえる。

(13) 献立

その月の給食の献立表は、本来は園だよりとともに保護者に向けて印刷されていると推測されるが、料理の写真なども取り入れられ子どもにもわかりやすく壁面に掲示されることも多い。基本的な生活を身につけていく過程で、幼児が食べることに興味を持ち、日々の給食を楽しむにすための掲示である。

(14) 数字の表

前述(10)のあいいうえお表と同様に、アラビア数字を認識させるためのポスターが掲示されている保育室もあった。そのほとんどが既製であったが、中には教師の手作りのものもあり、数字そのものだけでなく、数の数え方も自然と身につけることができるような装飾・掲示となっているものも見受けられた。

(15) ~の仕方

「バッグの掛け方」など園内で幼児が覚えるべき内容がイラスト入りで掲示されていることがある。また「あいさつの仕方」など、園内のみならず日常生活でも必要となる基本的な情報を認識させる掲示もこれに含んだ。

(16) 歌詞

歌の時間などにとりあげる歌の歌詞が、大勢の幼児が同時に見やすいように大きな模造紙に大きな文字で手書きされ、掲示されていた。年度末であったため、卒園式で歌う歌の歌詞表も多くみられた。常に目に付く壁面に掲示されていることで、幼児が歌をより身近のものとして覚え、また、文字に親しむきっかけになるとも考えられる。

(17) 座席表

幼児が自分の座る場所を意識するということは家庭生活では必要ではないが、園での集団生活においては非常に重要なことと言えるだろう。

席替えなどが頻繁に行われるクラスでは尚のこと、自分が誰と誰の横に座っているか、という掲示が、クラス全体の中で幼児自身が自分の存在を認識し、集団生活特有の必要情報となるかもしれない。他者を認めるという意識から、友達との関係をより強く考えるきっかけとなる掲示である。

(18) 賞状

運動会やその他のイベントで、園からそのクラスへ向けて与えられた賞状も掲示されていた。イベントにおいて個人ではなくクラス皆で力を合わせた思い出の品を掲示することで、クラス内の強い団結を促すものとなるだろう。

(19) お約束

「みんなでなかよくすごしましょう」「できることは自分でやろう」といった、生活目標として抽象的文章が掲示されていた場合、この種類に分類した。黒板に板書してケースもあるため、一定の期間ごとに入れ替えられる掲示と思われる。似たような内容に前述の(15)「~の仕方」があるが、(15)がイラストなどを用いて視覚的に幼児の興味をひくように作成されていたのに対し、(19)は標語的な文字情報のみが掲示されているものに限定して分類した。

(20) ままごとコーナーの装飾(窓等)

保育室によっては、部屋の一角を遊びのコーナーとして簡易的に仕切っている所もあった。こうした特別なコーナーを一つの部屋としてみなすために壁に疑似的につけられた窓やカーテンなどは、疑似的な遊び空間の雰囲気作りのための装飾としてここに分類した。

(21) 園だより

保護者へ配布される園だよりが月ごとの最新版を表紙にして掲示されていた場合、ここに分類した。本来は教師と保護者との共通認識として用いられるものだが、多数の保育室でこれらの掲示が確認されたことから、教師の健忘録としてのみならず保育室での保護者との情報共有において掲示を必要視されていると推測することができる。

(22) バスコース

自分がどのコースのバスに乗るのか、誰と一緒に乗るのかは、幼児たちにとって毎日の通園において重要な情報だと考えられる。また、ともに通園するメンバーはクラス内外に渡ることも考えられ、クラスメート以外の人間関係を築く役割を果たしていると言える。また同時に、幼児の通園をとりまとめる教師たちにとっての掲示であるとも言える。

(23) アルバム

園のイベントでの情景を撮った写真が、壁面装飾のメインに構成されているケースもあった。園のイベントごとに自分が友達とどんなことをしたのか、どんな喜びを味わったのかを写真を通して思い起こさせる掲示となっており、幼児たち自身が自分たちの園生活を振り返らせるためである。また同時に、来園した保護者へ見せる、幼児たちの成長記録であるともいえる。

(24) 既製の装飾品

額縁に入った絵や既製の工芸品なども掲示されている場合があったが、それらは非常に稀であった。

(25) 世界地図

既製の世界地図が掲示されている保育室もわずかではあるものの、幾つかみられた。幼児に、世界の広さを視覚的に伝えるには有効である。自分の身の周りの環境を意識させるという観点からみれば、世界地図よりも日本地図の掲示があっても不思議ではないのだが、今回の調査ではそれが全く見当たらなかったことは非常に興味深い点である。

(26) クラスだより

前述の(21)「園だより」と同様に、最新号を表紙にしたかたちで掲示されており、保護者と教師の情報共有のための掲示であると考えられる。もちろん、幼児とのかかわりの中で教師が毎月のスケジュール等を確認するために必要となる場合もあるが、基本的には、教師と保護者とのコミュニケーション・ツールであると言える。

(27) アルファベット表

アルファベット26文字を記したポスターは、前述の(10)「あいうえお表」や(14)「数字の表」と比較すると圧倒的に少なかったものの、それら二つと同様に、園生活の中で常に目にする壁面に掲示してあるため、幼児が自然にこれらの情報に親しみを覚えられるように、という教師の意図が考えられる。

表2・表3・表4は、調査したそれぞれの保育室における装飾・掲示の有無の結果をまとめたものである。前述の(7)「園の理念」は勿論のこと、(9)「お約束」等においても、園ごとに掲示の有無がおおよそ明確になっている。掲示の内容と方法にその園の方針や個性が表れており、各保育室にも壁面の利用の仕方や掲示する内容には、園ごとに共通した構成がみられた。このことから、クラスごとの壁面の装飾・掲示には、その園の特徴や教育的方針が垣間見られることが分かる。前回の調査(幡野・山根・小田倉2009)では「壁面装飾に取り入れる絵やイ

表2 保育室別結果 (A園・B園・C園)

	A園 4y-1	A園 4y-2	A園 5y-1	A園 5y-2	B園 4y	B園 5y	C園 4y-1	C園 4y-2	C園 5y-1	C園 5y-2
(1) 園の一日(時計)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(2) お誕生日表	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(3) お当番表	○						○	○	○	○
(4) 幼児と教師による装飾		○			○	○				
(5) カレンダー(既成)	○		○	○	○		○	○	○	○
(6) 教師による装飾	○		○	○			○	○	○	○
(7) 園の理念	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(8) 幼児の作品						○				○
(9) 手紙	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(10) あいうえお表			○	○	○			○	○	○
(11) カレンダー(幼児向け)	○			○						
(12) グループ表	○				○		○	○		
(13) 献立	○							○	○	○
(14) 数字の表							○	○	○	○
(15) ~の仕方								○		
(16) 歌詞				○	○					
(17) 座席表	○		○							
(18) 賞状										○
(19) お約束					○	○	○		○	○
(20) ままごとコーナーの装飾(窓等)										
(21) 園だより										
(22) バスコース	○	○	○	○						
(23) アルバム			○	○						
(24) 既製の装飾品										○
(25) 世界地図								○	○	○
(26) クラスだより										
(27) アルファベット表								○		
保育室ごとの掲示種類数合計	12	6	10	10	10	7	9	14	13	14

表3 保育室別結果 (D園・E園・F園)

	D園 4y	D園 5y	E園 4y-1	E園 4y-2	E園 5y-1	E園 5y-2	F園 4y-1	F園 4y-2	F園 5y-1	F園 5y-2
(1) 園の一日(時計)		○					○	○	○	○
(2) お誕生日表			○	○	○	○	○	○	○	○
(3) お当番表		○	○		○	○		○	○	
(4) 幼児と教師による 装飾			○	○	○	○		○	○	○
(5) カレンダー(既成)			○				○	○	○	○
(6) 教師による装飾							○	○	○	
(7) 園の理念										
(8) 幼児の作品	○	○	○				○	○	○	
(9) 手紙					○	○				
(10) あいうえお表									○	
(11) カレンダー (幼児向け)		○		○	○		○	○	○	
(12) グループ表				○			○	○	○	○
(13) 献立										
(14) 数字の表										
(15) ~の仕方			○	○	○	○				
(16) 歌詞										
(17) 座席表							○	○	○	○
(18) 賞状				○	○	○	○		○	
(19) お約束										
(20) ままごとコーナー の装飾(窓等)	○									
(21) 園だより										
(22) バスコース										
(23) アルバム		○								
(24) 既成の装飾品	○	○								
(25) 世界地図										
(26) クラスだより										
(27) アルファベット表										
保育室ごとの掲示種類数合計	3	6	7	7	7	8	9	10	11	6

表4 保育室別結果 (G園・H園)

	G園 4y-1	G園 4y-2	G園 5y-1	G園 5y-2	H園 4y-1	H園 4y-2	H園 4y-3	H園 5y-1	H園 5y-2	H園 5y-3
(1) 園の一日(時計)		○	○	○	○			○	○	○
(2) お誕生日表	○	○	○	○	○		○	○	○	○
(3) お当番表		○	○	○	○	○	○	○	○	○
(4) 幼児と教師による 装飾	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(5) カレンダー(既成)					○	○	○	○	○	○
(6) 教師による装飾	○	○	○	○		○	○	○	○	
(7) 園の理念					○	○	○	○	○	○
(8) 幼児の作品					○		○	○	○	○
(9) 手紙									○	
(10) あいうえお表	○			○			○		○	○
(11) カレンダー (幼児向け)						○				
(12) グループ表										
(13) 献立					○		○	○		○
(14) 数字の表				○	○				○	○
(15) ~の仕方						○	○	○		
(16) 歌詞	○				○			○	○	○
(17) 座席表						○				
(18) 賞状										
(19) お約束									○	
(20) ままごとコーナー の装飾(窓等)	○	○	○	○						
(21) 園だより					○	○	○	○	○	
(22) バスコース										
(23) アルバム										
(24) 既成の装飾品										
(25) 世界地図										
(26) クラスだより						○		○	○	
(27) アルファベット表									○	○
保育室ごとの掲示種類数合計	7	6	6	9	11	11	12	12	15	11

ラストの選択基準」として「担当するクラスらしさ」が最も指示されていたが、今回の調査においては、実際には各クラスをまとめている園の方針が壁面構成に色濃く反映されることを示唆する結果となった。

3-2 壁面装飾の目的別分類

では、これらの壁面装飾は、いったいどのような目的で構成されているのだろうか。本項では、前項で挙げた装飾・掲示を「生活」「遊び」「教育」のキーワードを元にテーマごとに分類した。

幼児教育における「生活」、「遊び」、「教育」とは互いに関連し合うものであり、単独で存在することはほとんど無いといって良いであろう。しかし、壁面は教師の意図に基づいて作られるものであり、それぞれの壁面の掲示物、装飾品には、教師の意図があることは極めて明確である。そしてその意図は、幼児の生活の様々な場面を想定された上で成り立つものである。

ここで、本研究の分類における「教育」「遊び」「生活」の概念を明らかにしておく。

幼児教育は遊びを通して行う教育であり、教育と遊びとは本来一体としての意味をもっていると言える。しかし、遊びが幼児にとっての学習となり、幼児教育本来の意味としての教育となるためには、遊びに、意味ある経験としての質や活動の深まり、幼児一人ひとりの主体性の発揮といった要素が含まれていることが求められる。幼児教育においては、遊びが教育としての意味をもつために、教材研究、援助等、様々な教師の役割が背後に働いている。従って、もともとの遊びの中に教育的要素が存在するのではなく、遊びが教育力をもつ遊びへと次第に形作られていくと言える。そこで、教育力をもつ遊びと、そういった遊びになる前段階の遊びとを区別して、前段階のものを本研究の「遊び」とする。

これは、「生活」についても同様である。本来、生活と教育の関係は、幼児教育においては

切り離して考えることはできないものである。倉橋惣三が「生活を生活で生活へ」と言うように、幼稚園生活においては、生活そのものが教育であり、生活の中に教育があるとも言える。一日の生活が始まる時、生活に教育ありきで始まるのではなく、本来ある生活が、生活の流れを通して、次第に教育力を発揮するようになると言える。純粋に「生活」そのものにかかわる装飾・掲示としては、額縁入りの絵などの「既製の装飾品」や「カレンダー（既製）」「教師による装飾（テーマ無）」などが見受けられた。これらは幼児に、保育室を特別な環境ではなく日常的な環境として親しんでもらうための、いわば生活空間の雰囲気を作るものであるといえる。そこで、こういった生活空間の雰囲気を作るものを「生活」とする。

以上を踏まえ、図1では、3-1で挙げた27種類の壁面装飾・掲示を「生活に関連するもの」「遊びに関連するもの」「教育に関連するもの」というカテゴリーに分類した。続けて、それらのカテゴリーが互いに重なり合う要素も含めて考察する。

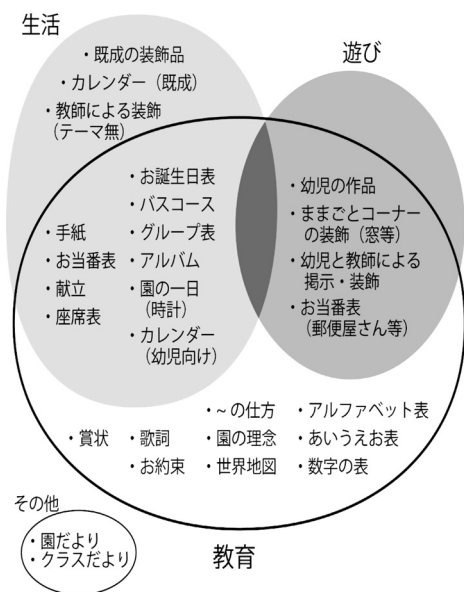


図1 壁面装飾の目的別分類

(1) 生活を通しての教育を目的とした装飾

前述した概念に基づき、本稿では本来の生活そのものに彩を与えるもの、生活を豊かにするものに関しては「生活」に分類し、生活の中に教育的配慮や意図をもって働きかけている装飾・掲示を「生活+教育」に分類することとした。

例えば、多くの保育室の壁面に掲示されていた「お誕生日表」が挙げられる。幼稚園教育要領（2009年施行）の領域「人間関係」においては、「友達と共に過ごすことの喜び」「友達のよさに気付き」「友達とのかかわりを深め」など、友達の存在を知り、友達との豊かなかかわりを促す内容が重視されている。「お誕生日表」は、個々の成長の喜びを味わうと共に、友達の成長を共に祝うという意図も含まれると考えられるため、「生活+教育」のカテゴリーに分類した。同様に「アルバム」「座席表」「グループ表」もまた、クラスの友達とのかかわりを強く意識させ、園での生活を豊かにするものであると考えられるため、同様に分類することができる。

また新幼稚園教育要領では、食育に関連して、領域「健康」の内容に「先生や友達と食べることを楽しむ」という項目が加えられた。給食を実施している園においては写真付の「献立表」が保育室に掲示されており、食への興味を喚起するものとして、重要な役割を担っていることが推測される。

「園の一日(時計)」や「カレンダー(幼児向け)」は、幼児たちの日々のサイクルを意識させ、生活習慣を身につけさせるための教育的な目的が明確な掲示である。これらの掲示に手作りの物が多いのは、指導する上で幼児の興味を喚起するような楽しい表現方法の工夫が必要とされているからだと考えられる。

(2) 遊びを通しての教育を目的とした装飾

本研究では、「遊び」の分類においては、活動そのものとしての「遊び」を意味することとし、そこに経験としての質や教師の教育的配慮や意図などの教育的要素を含むとき「遊び+教育」に分類することとした。

「幼児と教師による装飾」は、この「遊び＋教育」に分類される。これは幼児が作品を制作した活動（遊び）の過程、それが装飾の一部として掲示される過程、それぞれに教師の教育的配慮と意図が明確に含まれているためである。また「幼児の作品」の掲示は、好きな遊びの中で描いたり作ったりした作品が教師の手によって掲示された時、「掲示する」教師の意図と、「掲示された」幼児の喜びとに、教育的意味が存在するからである。ともすると「幼児の作品」および「幼児と教師による装飾」の両者は、別の目的を持つ装飾・掲示であるように見える。しかし、幼児が日々の遊びの中で教師の指導のもと、または自発的に生み出した制作物がクラスの壁面に掲示され多くの目に触れるということが、幼児自身の制作体験に特別な意味を与えるという点で、教育的な意図と目的を持った掲示・装飾であると言える。特に「幼児と教師による装飾」は、幼児が日々の遊びの中で生み出すものを、教師が壁面に構成して掲示するものを指している。遊びの延長であった制作物が、教師の補助により一つの作品として保育室の雰囲気を作り出す壁面へと再構成される過程は、幼児教育において重要なものであると言えるだろう。

また、「ままごとコーナーの装飾」や「お当番表（郵便屋さん等）」は子どもたちの遊びの活動そのものの雰囲気作りを手助けするためのものではあるが、同時に子どもたちの想像力を喚起させる教育的な視点も含まれていると考えられる。これらに教師の手作りの要素が多くみられるのも特徴的である。幼児の遊びの想像力をかきたてるためには、既製の物だけではなく、創作の工夫を見本として示すことによる教育効果への期待が見られる。

（3）教育的な役割を担う装飾

「教育」の分類に関しては、「生活を通しての教育」または「遊びを通しての教育」には分類されないと思われるもの、意図的な知的教育を目指すものを含むこととした。教師の手による

ものではない「園の理念」「賞状」「あいうえお表」「アルファベット表」「世界地図」のほか、教師が時間をかけて制作したとみられる「数字の表」「お約束」「歌詞」「～の仕方」といった掲示がここに分類される。興味深いことに、「生活を通しての教育」および「遊びを通しての教育」のカテゴリーに含まれないこれらの装飾には、手作りのものと、既製のものとが混在している。つまり、意図的な知的教育を目的とした掲示・装飾には、教師の経験から生まれる手作りの教材と、一般的な既製教材とが同時に選択されていることが分かる。子どもたちが積極的に学習するための補助的な存在として労力を厭わずに制作するか、または教師側の一方的な知識提供だと割り切って既製のものを活用するかは、教師の教育観によって意見が分かれるところであろう。

3-3 壁面装飾の意味・役割

調査を行ったほとんどの園において、保育室内の壁面は、様々な装飾や掲示物で飾られ、幼児が幼稚園生活の多くの時間を過ごす保育室内には、沢山の視覚情報があることが明らかとなった。これまで述べてきたように、壁面の装飾、掲示には、教師の幼児に対する意図・メッセージが込められている。従って、保育室の中にいる、ということは、常に何らかの教師からの間接的な働きかけの中にあると言うこともできるだろう。幼児教育が、生活の中で、遊びの中で、そして身近な環境とかわる中で行われるという理念は、教師の思いのこもった壁面環境の中に体言されていると言える。

その中でも特に壁面装飾は、保育室の壁面全体の多くの面積を占めている場合が多く、様々な掲示物や装飾がある中でも、ひと際目を惹く大ききで掲示されている。壁面装飾は、年間を通して装飾しているもの、季節毎、行事毎に、その時々幼児の興味関心や、活動の流れに沿ったデザインである場合が多く、また、壁面の装飾の中での個人の顔写真や作品の配置によっ

ては、一人ひとりの幼児が大切にされていることを実感させるような教師の意図を強く表すものもある。今回の調査は3月上旬であったため、5歳児クラスでは、幼稚園生活の思い出を振り返るものや、小学校入学への期待感をもたせたいという意図をもつ場面構成が多く見られた。また4歳児クラスでは、進級や成長の喜びや、春を迎える喜びなど、この季節に幼児に味わわせたい事柄に対する教師の強い思いが反映されたデザインとなっているクラスが多く見られた。

保育室の壁面全体の多くの面積を占めているこういった装飾は、保育室空間の雰囲気全体を大きく左右するものである。調査者自身、保育室に入った瞬間目に飛び込んでくる装飾で、3月上旬という季節感を強く感じ取ったこともしばしばであった。これは、幼児が保育室に入った瞬間や保育室で過ごす時間、教師が幼児に伝えたい「季節感」などの雰囲気を、いつも感じさせていることを実感させるものであった。このことから、装飾の大きさや、壁面全体に占める面積の割合は、教師が幼児に伝えようとするメッセージの強さと比例しているようにも思われた。

このように、一見すると保育室を明るく楽しい雰囲気にして壁面装飾には、教師の教育的意図が強く反映されているものであるということが伺えた。そして同時にそれは教師の幼児教育観にある「生活」「遊び」また、楽しさといった要素の中に、常に教育への意識が含まれているということも示唆している。

保育室空間全体を、どのような保育空間とするかということは、それぞれの園の保育方針、また担任保育者自身の保育方針に大きく左右されている。先に、保育室の中にいるということが、保育者からの間接的な働きかけの中であると述べたが、保育室空間の構成、壁面の装飾・掲示の内容や方法は、まさに保育観を視覚化したものである。様々な視覚情報がある保育室の中で、空間の雰囲気を大きく左右する壁面について、何を目的としてどのように構成するかは、

保育者の資質や能力として重要な位置を占めるものであろう。

4. まとめ

幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいは「身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりそれを生活に取り入れようとする。」「身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で物の性質や数量、文字などに対する間隔を豊かにする。」とされている。子どもたちにとって、毎日を過ごす保育室は、幼稚園という教育空間であると同時に、自宅同様に身近な生活環境であると言える。前回の調査（幡野・山根・小田倉2009）からは、教師たちが「生活」「遊び」といった要素の方をより大きく取り上げられ意識していることが読みとれたが、今回の調査で実は、壁面装飾・掲示には、教育的要素が多く含まれていることが明らかとなった。そこには教育的情報を示すための掲示板的な役割と、それを楽しく明るく、幼児に分かりやすい表現方法で示したい、という教師の意図が共存していると言えよう。そして時にはその意図を最大限に表現するために、多大な労力と時間を費やした手作りの壁面制作がなされている。

壁面に教育的な情報を取り入れ、様々な造形的工夫を凝らし、幼児が生活・遊びの中で自然にそれらと親しむことができるように壁面装飾を構成することは、経験と時間と労力を要するため、色使いや空間構成の工夫といった点についての十分な検討を行うことができない場合もあるであろう。そのため、イラスト集からの引用やキャラクターの多用といった構造も止むを得ないという状況も起こり得ることである。

乳幼児教育専修では、1年次の「教職入門」の授業において、壁面装飾を作成する時間を設けている。学生製作による壁面構成の作品例を観察してみると、どれもにぎやかでかわいらしい空間作りを目指して作成したものが多く、壁

面構成への教育的意図や、保育室空間の構成、といった認識が十分に得られていないことが伺える。今回の調査の結果に見られたような、生活の中での教育または遊びの中の教育を意識した壁面の製作には、実際の保育室の壁面装飾の役割をよく理解し、そこに教師として自分または園の教育観をいかに反映させ、いかに幼児たちの想像力と生活力を喚起させることができるか、意識する必要がある。従って、壁面装飾作成の授業において、保育室空間の構成、雰囲気作りだけではなく、保育者が環境に込める教育的意図や配慮についての認識を掘り下げることが、壁面装飾を学ぶ上で基本的に重要な点であることも、今回の研究において再確認された。

今後、保育者養成の立場から、学生への壁面

装飾作成の伝達と同時に、子どもたちが落ち着いて過ごせ、能動的に活動できるような身近な環境としての壁面装飾の研究を引き続き行いたい。

引用文献

幡野由理・山根直人・小田倉泉「保育環境における壁面装飾の意義1—幼稚園教員・保育士への質問紙調査から—」埼玉大学紀要 教育学部 第58巻 第2号 2009年
文部科学省「幼稚園教育要領」2008年3月
(2009年施行版)

(2010年3月31日提出)

(2010年4月16日受理)